

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 新居浜市立新居浜小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒792-0012  
愛媛県新居浜市新須賀町3丁目1番58号

E-mail [niiie-ad@esnet.ed.jp](mailto:niiie-ad@esnet.ed.jp)

Website <http://niihama-e.esnet.ed.jp/cms/>

幼児児童生徒数 男子 105名 女子 113名 合計 218名  
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「見つめよう 考えよう 未来へつなげよう ふるさと新居浜 ～学校ビオトープの学びを中心に～」を活動テーマとして、E S D の実践を通して次にあげる三つの児童像に示す力の育成を目的としている。

- ・自然のおもしろさや不思議さを感じることのできる児童 **【関わる力】**
- ・興味・関心を広げ、進んで調べ学習に取り組もうとする児童 **【探究する力】**
- ・様々な発想に気付き、友達の良さを感じることができる児童

**【他者と協力する態度】**

具体的には学校ビオトープの学びを中心として、①環境に関する活動、②ふるさとに関する教育、③防災に関する学習、④平和に関する学習を行った。

### ① 環境に関する教育

本校のE S Dの中核をなすビオトープを中心とした自然と関わる活動である。低学年では生活科において自然の中での遊び、栽培活動等を通して自分たちの生活を楽しいものにしたり、生命や成長に気付いたりする内容である。中学年では飼育活動等を通して、自然や環境について自分の見方や考え方を深め

たり、「循環型社会」の実現について考え、自分にできることを実行しようとしたりする内容となっている。高学年では稲作りを通して生産の工夫や努力、友達や自分の良さに気付くとともに、自分自身の生活を振り返ることや資源の有限性について知り、大切にしていこうとする意識を高める内容となっている。発達段階に応じて身近なところから社会全体へと学びを広げ、一人一人が社会の一員であることの自覚を高めて、具体的な環境保全行動などが実践ができる児童の育成をめざしている。

## ② ふるさとに関する学習

2年生ではふるさと学習として、生活科とも関連させながら、1学期には町探検をおこなう。そして、2学期には自分たちの住む地域の施設などを見学する。これらの学習を通して、地域の良さに気付くとともに、そこで働く人にも焦点を当て、自分たちの生活が様々な人のおかげで成り立っていることに気付かせる内容となっている。

## ③ 防災に関する学習

5年生では社会科の学習と関連させて、日本での災害について調べるところから学習をスタートする。そして、そこで得た知識を基に自分たちの地域に起こりうる災害について話し合い、新聞にまとめて発表したり家族のルールを決めたりと自分たちの生活と関連させ、実際に起こった時に身を守る行動をとることができる児童の育成を目指している。

## ④ 平和に関する学習

6年生では戦争などについて調べ学習を行った後、修学旅行で平和公園を訪問することで、現実には戦争が起こったことを実感するとともに、平和の尊さ、大切さを強く感じる事ができた。調べた内容はタブレット端末を活用してまとめ、発表することで学びを他学年にも広げることができている。



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ポケット図鑑、ビオトープ、地域防災マップ、タブレット、スカイメニュー、水車、校内田、校内の野菜園、「チャグリ」(JAグループ)「お米なんでも大百科」(ポプラ社)「やさいむらのなかまたち」(偕成社)「学校のまわりの植物ずかん」(ポプラ社)「よみきかせいきものしゃしんえほん」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESDの全体計画を作成し、学校の教育目標や研究主題に合わせた本校のESDの目標を設定している。本校には、約10年前から整備してきたビオトープがある。総合的な学習を活動の中心として位置づけ、各学年がビオトープとその周囲の田畑を利用した活動を計画し、各教科との関連をESDカレンダーの作成により明確化している。低学年は自然と触れ合うことから始め、高学年では水車を使って循環式社会にまで興味を持つ活動を行う等、目標に沿って各学年の指導内容や活動を児童の発達段階や興味関心に合わせて位置づけ指導方法の工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

全体計画を基に、各学年がそれぞれの活動課題に即した年間計画を作成し、それを全校の研修の場で見直すことで、各学年で、落ちや重なりがないか確認し、関連性を全教職員が把握し活動に当たっている。また、年間計画に実践の反省や指導に必要な教材や教具支援していただける団体や個人の連絡先等を記録し、指導者が変わっても継続的に指導の質が変わらないようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

総合的な学習の活動として行うESDについては、総合的な学習の評価として児童の制作物やレポート、発表資料、感想等を蓄積し、その成長を評価する「ポートフォリオ評価」により評価し、教師の文章表記により、児童や保護者にその結果を伝えている。その他の学校活動の評価については、教師の観察や児童相互の感想発表やふりかえりなどより教師が記録した内容で評価している。成果として、活動で育みたい資質や能力の向上がみられたこと、課題として、教師間の取組の温度差が挙げられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果は学校ホームページにESDのカテゴリーを設け、各学年が総合的な学習を中心に行ったESDの活動内容を日々更新し、成果を発信している。また、各学年の学年だより、学校便り、公民館と連携した場合は公民館だより等でも、その都度活動内容や協力者について掲載している。それにより、教育活動への協力者の継続的参加や協力者の増加、保護者・地域における学校教育への理解、ESDへの理解の拡大が効果として得られた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

公民館とは、年間を通じて連絡を密にし、学校生活をサポートする体制を構築していただいている。再来年度よりのコミュニティ・スクールの中心的協力団体としてさらなる交流を進めている。また、養護老人施設への委員会活動としての慰問、ケアセンターへの花の贈呈、JAの協力による稲や野菜の栽培の指導、別子山村から講師を招き、カブトムシの飼育方法をご指導いただくなどの交流も行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

新居浜市は小学校17校中学校11校のすべての学校がユネスコスクールに加盟している。市内各学校での取組は、それぞれのホームページで知り、その取組を参考にしたり、それぞれの特色ある取組を教育委員会が各学校に紹介する「ESD通信」で知り、詳しい内容を情報交換したりしている。また、年間1回ESDフェスティバルを市教委の主催にて開催し、小学校・中学校・高等学校の代表の取組や、他市・他県の先進的学校の取組を聞き、情報交換することで、交流のきっかけを得ている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

ビオトープを中心とする活動により、環境に対する意識の向上、自然を愛護する気持ちが発達段階に合わせて身に付いている。また、ICT（タブレット）を効果的に使用した学習展開の普及と工夫により、情報を収集し、整理分析する力、ICTを効果的に活用した表現方法が向上した。さらに、ESDカレンダー作成等によるカリキュラムマネジメントの充実により、保護者・地域との連携協力関係が深化し、ゲストティーチャーによる学習の継続化も実現している。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度も総合的な学習を中心とした活動を中心に、各教科、道徳、特別活動と連携し、地域の教育力を活用しながら活動を推進する。特に、ビオトープを活用した取り組みを発達段階に合わせて取り入れ、環境、エネルギー、生物多様性、食育等の課題に取り組み、探究する力や共に生きようとする力を育てていく。同時に、平成30年度より、教育課程が変更になり、総合的な学習の時数が減ることを受け、他の教科とマネジメントした取組の研究を推進する。また、平成31年度よりのコミュニティ・スクールへの移行に伴う様々な連携機関とのつながりの見直しや再構築を進めていく。